BUNKAZAI 情報

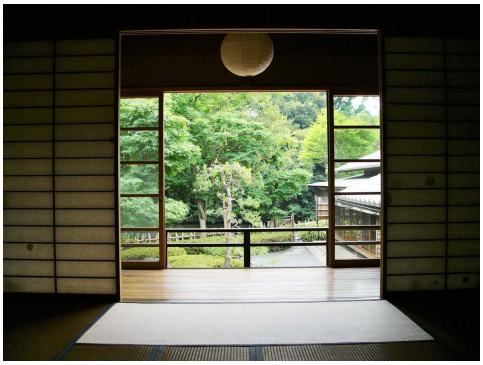
令和２年
（2020）
７月１日

第 27 号

発行：熊谷市立江南文化財センター

TOPICS

新型コロナウイルス対策と文化財



３月以降、日本国内における新型コロナウイルスの感染拡大に伴い緊急事態宣言が出されるなど、国民生活における活動の自粛など様々な影響がありました。自粛期間中、国内の博物館や美術館も休館閉鎖となり、熊谷市においても図書館や文化施設の利用休止が相次ぎました。名勝「星溪園」においても室内利用の休止と受付中止を行うなど、当初予定していた行事の多くが中止となりました。その後、埼玉県においては緊急事態措置が解除されましたが、３密回避やソーシャルディスタンスの維持など新たな生活様式を目指す「変化」の動きがあります。

そうした中、県内の博物館施設や文化施設の多くが再開し、熊谷市内の各施設も感染症対策を行った上での利用を促すなど「ウィズ・コロナ」としての文化芸術との関わり方について検討と模索が続いています。室内利用を再開した星溪園においては７月までのお茶会開催が中止となり、どのような方法での開催が可能か議論を進めています。そして、秋以降の再開を目指して主催者側と利用者側の共通理解に基づくコロナ対策の指針を定め、その実施に向けて準備を行っている状況です。

星溪園の使用制限が続いていた６月、熊谷市の文化財保存修理事業のＰＲ大使を務め、イタリア国立ピアチェンツァ音楽院に留学しているソプラノ・レッジェーロの声楽家・土田彩花さんが当園を訪れ、自身の安全、医療従事者やエッセンシャルワーカーへの感謝の意を込めたメッセージ動画を撮影されました（右下写真）。今後、音楽院のサイトなどで世界に配信されるとのことです。土田さんは「事態の収束とともに、そしてその後、音楽や文化財など文化芸術を通じての人々に平和がもたらされるよう願っています」と話していました。

一方で、「関東一の祇園」と称され毎年７月２０～２２日に開催される八坂神社大祭「熊谷うちわ祭」（熊谷市指定無形民俗文化財「熊谷八坂神社祭礼行事」）は諸行事を自粛し、神輿渡御や山車・屋台の巡行などの諸行事は実施しない予定で、少数の関係者だけが参加する社殿での神事のみで行うことが決まりました。規模縮小による祭礼の自粛は戦後初となります。コロナ感染拡大の影響で、１年延期の判断が下され、年番町の荒川区は来年引き続き祭礼の運営全般を担当します。市内の無形民俗文化財行事も同様に、大半が中止または規模を神事のみに限るなど本年の開催は限定的なものとなっています。再び祭礼と向き合える日々を願って止みません。（山下）

熊谷市指定無形民俗文化財「上川原神道香取流棒術」、「四方固め」コロナ禍予防祈願

令和２年４月１２日（日）午前１１時～正午、市内小島地区上川原で伝承されている市指定無形民俗文化財「上川原神道香取流棒術」が行われました。例年は春の祭典として地域祭礼として盛大に執り行われますが、本年は新型コロナウイルスの対策として春の祭典は中止となり、その代替として、地域各所で疾病除けを祈願する神事として「四方固め」の棒術披露が、上川原集会所及び地域の東西南北に位置する街頭で開催されました。なお、疾病除けとしての特別奉納の執行は記録上確認できず、明治時代以降初めての開催と推定されます。当日の様子は映像収録され、動画共有サイトの YouTube の江南文化財センターページにおいて公開配信を始めました。どうぞ勇壮な棒術をご覧ください。（山下）

市内遺跡発掘情報

池上遺跡発掘調査の開始

国道１７号バイパスと国道１２５号が交わる池上（南）交差点の東方で、６月から池上遺跡の発掘調査が始まりました。これは「道の駅」整備に伴う発掘調査で、令和２年度から最大４年にわたる調査を実施する計画です。今年度は道の駅の東と南を巡る道路部分の調査が中心になり、その後、調節池や建物部分を調査する予定です。

池上遺跡は、これまで２度の発掘調査が行われていますが、国道の交差点付近では、弥生時代中期の竪穴住居跡１１軒と、これを取り囲むとみられる環濠が見つかり、多量の土器、炭化した米、土偶形容器などが出土しました。また、平安時代の掘立柱建物跡５棟と、「中」の文字が書かれた墨書土器も検出されています。ここから南東に約５００ｍ離れた地点では、弥生時代中期の方形周溝墓や、古墳時代後期～奈良時代の祭祀的な要素が強い土器が多量に投げ込まれた河川跡などが見つかっています。

今回の調査地点は、この２地点とは離れているため、遺構も遺物も少ないですが、今後予定されている調査箇所では多数の遺構や遺物が検出されることが期待されます。（山川守）

諏訪木遺跡出土遺物展

現在、江南文化財センターのロビーでは、９月末までの予定で諏訪木遺跡出土遺物展を開催しています。

諏訪木遺跡は熊谷市東部の上之地域に所在し、今回の展示はこれまでの数度にわたる発掘調査で出土した遺物のうち、中世の成田氏に関わるものを中心に展示しています。

文献資料から、上之の一部となっている成田の地に成田氏が陣を構えたのは１５世紀後半と考えられます。また、この周辺のこれまでの調査では、饗宴などに用いたであろう、かわらけや陶磁器類、土鍋、火鉢、銭貨などが多量に検出されています。

出土したかわらけは２種類に分類でき、一方が山内上杉系、もう一方が古河公方系のかわらけです。当時、古河公方と山内上杉氏は権力闘争でライバル関係にありましたが、時には和睦もしました。陣跡からは古河公方系のかわらけが多量に出土していますが、一部には山内上杉系のかわらけも出土していることから、この周辺で両軍和睦のための宴席を設けた際に使用したかわらけなのかもしれません。今回の展示は、こうしたもの以外にも複数の展示品がありますので、ぜひご来館ください。（腰塚）

連載　くまがやの古墳群

㉑　西城切通（にしじょうきりとおし）古墳群　－ほ場整備事業により発見された古墳跡－

西城切通古墳群は、妻沼地域西城の福川右岸、標高約２６ｍを測る妻沼低地の自然堤防上に所在する古墳群です。本古墳群は、西城切通遺跡の発掘調査により古墳跡１基が発見されましたが、かつてはこの古墳以外にも多数存在し群を形成していたものと考えられます。また、前号の第２６号で紹介しました乙鵜森（おつうのもり）古墳群の北に近接する位置にあり、地形的に見ても同じ環境に築造されたものと考えることができます。

本古墳群は、乙鵜森古墳群と同様に、河川の氾濫等により消滅し、多くの古墳の存在は不明の状況です。

さて、発見された古墳についてですが、残念ながら時期を含めて実態は全く不明で、県内の発掘調査の概要について調査年度ごとにをまとめた『埼玉県埋蔵文化財調査年報　昭和６３年度』に記述があるだけと言ってもいい状況です。

なお、西城切通遺跡は、縄文時代後期後半の集落跡や遺物包含層が確認された遺跡で、当該期の土器が多数出土したほか、土偶、土製耳飾、勾玉・石剣・石棒、石鏃（せきぞく）や打製石斧などが出土しています。（吉野）

水田が広がる現況の風景（北に福川の土手が見える）

文化財センター通信

◇熊谷市ホームページキッズページの文化財情報

熊谷市 キッズページ
熊谷市役所ホームページへ
わたしたちのまち 熊谷市
みんなの ひろば
市役所・市議会の しごと
熊谷 たんけん
現在のページ トップページ › キッズページ › 熊谷たんけん › 文化財（ぶんかざい）を見に行こう！ › 愛染明王(あいぜんみょうおう)
愛染明王(あいぜんみょうおう)
Tweet
更新日：2020年6月4日
染色業者から厚い信仰を受けた愛染明王

市内下川上にある宝乗院愛染堂には、愛染明王が祀られています。この愛染明王像は、平安時代末期に、星川で洪水があった際に、当地に流れ着いたという逸話が残されています。また日本一木三体像の一つであるとの言い伝えもあります。一木三体の像とは、一本の木から造り出された三体の仏像のことです。他の二体は、それぞれ陸奥国と筑紫国にあるといわれていますが、その有り処は不明です。

「愛の仏」として、愛染明王は恋愛成就や縁結びを願う多くの人に信仰され、江戸時代には遠く江戸からも参拝する人が訪れてにぎわったようです。また愛染は「藍染」に通じることから、関東一円の染色業者から厚い信仰を集めました。堂内には、染色業者から奉納された絵馬などが残されています。

愛染明王は、1988年11月3日に熊谷市の有形民俗文化財に指定されています。

市ホームページ内キッズページでは、熊谷の文化財について、お子様向けにポイントを絞って紹介しています。ホームページのトップページ下欄の関連情報のリンク集からキッズページを選択していただき、熊谷たんけん>文化財を見に行こう！でご覧いただけます。

身近な文化財を知るきっかけにしていただき、お友達やご家族と一緒に、現地に足を運んで実物をご覧ください。

さあ皆さん、市内を探索し、身近な地域の遺産に触れてみませんか？きっと熊谷の魅力を再発見できるはずです。（山川愛）

◇立正大学での文化財に関する講義の動画配信を開始

埼玉新聞　2020年（令和2年）4月7日（火）

動画投稿サイトで配信された立正大学熊谷キャンパスでの講座

聖天堂修復の
熊谷の文化財セン
動画サイトで

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため公共施設や大学機関などでの文化講座や講演会が中止となる中、熊谷市立江南文化財センターは、過去に収録した文化財に関する講座を動画投稿サイト「ユーチューブ」で公開している。

3月26日……は、1月……ンパスの……催した官……市の文化……向」。同……主任が講

江南文化財センターでは、新型コロナウイルス感染拡大対策で公共施設や大学機関などでの文化講座や講演会が中止となる中、過去に収録した文化財に関する講座を動画共有サイトの YouTube で公開しています。この取り組みが、埼玉新聞で取り上げられました（右写真）。その一例として、本年１月に立正大学熊谷キャンパスで開催した官学連携の講座「熊谷市の文化財保護と国際的動向」について YouTube での配信を始めました。講座では、文化財の原初的な状態を意味する「オーセンティシティ」をテーマとしています。国内の歴史的建造物などの文化財の多くは建立時から複数回の保存修理を重ねていることから、オーセンティシティが確保されていないとして国際的に課題となっていました。この課題を乗り越えた上で、熊谷市の国宝「歓喜院聖天堂」の平成の大修理がどのように進められたかについて説明しました。（山下）

◇BS 朝日「建物遺産」で熊谷の歴史的建造物を紹介

BS 朝日「建物遺産―歴史的文化財を訪ねて―」において市内の歴史的建造物が紹介されました。本年４月から５月にかけて「熊谷特集」として、国登録有形文化財「坂田医院旧診療所」、同じく「熊谷聖パウロ教会」、妻沼聖天山の国宝「歓喜院聖天堂」及び重要文化財「貴惣門」などの建造物群が取り上げられ、美しい映像と詳細な解説とともに放映されました。「坂田医院旧診療所」では内部を一部配置替えし、ギャラリー風の設えにしました（右写真、放映内容）。建造物の記録保存作品として意義深いものとなりました。（山下）

【文化財探訪　平戸（ひらと）の大仏（おおぼとけ）（木彫大仏坐像）】

市内平戸に所在する源宗寺。本堂内部には、薬師如来と観音菩薩の二体の木彫大仏坐像が鎮座し、古くから「平戸の大仏（おおぼとけ)」と呼ばれ地域の人々に親しまれてきました。二体の仏像は、台座を含めると約４メートルに達し、木造の仏像では県内最大規模を誇り、全国的にも希少なもので、市指定有形文化財彫刻となっています（右写真）。

向かって右が薬師様。この仏様は、特に目の病気を治すといわれています。左が観音様。馬の病気を治すといわれています。当時の馬は、今でいう鉄道や車の役割を果たし、人々の生活にとって欠かせない動物でした。その馬に万一のことがあってはと、人々が仏様に馬の無事を祈っていたのでしょう。

この二体の仏像の体内からは薬の秘伝書が発見され、それに従ってつくられた薬は「平戸の妙薬」として有名になり、これを求めて訪れる人が絶えなかったといいます。

二体の仏像を安置する源宗寺の本堂は、建物全体が傾くなど老朽化が進み、今後、仏像の保存にも支障が生じることが懸念されています。こうした事態に対応すべく、現在、熊谷市では「源宗寺本堂保存修理事業」を進め、皆様からの寄付を募っています。今日まで護り継がれてきた平戸の大仏を、後世に繋いでいくために、皆様のご理解とご協力を心よりお願いいたします。（山川愛）

文化財コラム　肥塚古墳群と古塚石棺

市内肥塚「成就院」の周辺に存在した肥塚古墳群を『熊谷町誌』(1929 年編さん)や最近の発掘調査内容から一部復元しました。その特徴は、①河原石積石室、②角閃石安山岩の加工石積石室、③凝灰岩の截石積石室の３種類の石材を用いた横穴式石室があったことです。玄室平面は弧状の形から「胴張型」と呼ぶ石室構造をしており、古墳時代後期～終末期の築造と考えられます。

①の河原石は、人頭大の楕円礫が主で石室床に敷く小礫と共に荒川採取と思われます。②の角閃石安山岩は、群馬県榛名山ニッ岳の噴出溶岩が利根川水系に流れ下ってきたもので利根川流路に面した妻沼低地近辺の古墳に使用例が多く、②の石材利用の古墳としては肥塚古墳群は南限の使用例です。③の凝灰岩は、明治期に旧諏訪神社跡地から掘出された石棺材 1 点（棺身）と蓋石と伝わる石材 2 点で成就院境内に保存展示され、「古塚古墳石棺」と呼ばれる市指定文化財になっています。

この灰白色の凝灰岩は、市南部の小江川から滑川町にかけて産出する凝灰岩を運んだと考えられます。凝灰岩は産出地近辺の石室には多用されますが、石棺への使用は珍しい例です。石棺は、灰白色凝灰岩を刳り貫き、長さ約 2m・幅 1.2m・深さ 50ｃｍ程の棺身に、一方の平石を蓋にしたとされていますが、少し疑問が残ります。

使用石材の差異はこれを調達した人々の生活圏や交易活動など様々な観点から考える余地があります。その一端と再検討を要する石棺の観察報告は、続編として江南文化財センターのブログ「熊谷市文化財日記」に掲載します。（新井）

【マニアックな文化財メモ】備前渠用水路の歴史

妻沼地域を流れる「備前堀」の愛称で親しまれる「備前渠用水路」は、慶長９年（1604）に伊奈備前守忠次が江戸幕府の命により開削した、県内最古の大規模な用水路です。市内八木田、備前渠用水沿いにある「備前堀再興記碑」には、備前渠用水が、天明３年（1783）の浅間山の大噴火により、岩石や流木などで川底は平均２ｍも上がったことから、度々洪水となり、妻沼地域では使用不能となったため、これを幕府に願い出て再興したことが記されています。この碑は再興を記念して天保４年（1833）に建立されました。吉田市右衛門宗敏が、備前渠用水の復興のために奔走し、金 200 両（現在の換算価値で約 1200 万円）を寄付しました。碑文には宗敏への感謝の内容が江戸の名石工「窪世祥（くぼせしょう）」によって刻まれています。宗敏は、代々下奈良村の名主をつとめた吉田家の３代目で、貧しい人々に育児費を支給したり、洪水による水害へ物資を援助するなどしました。その善行は、幕府や忍藩からもしばしば讃えられ、近隣の村々などからも多くの尊敬を集めました。下奈良の集福寺には、吉田市右衛門の墓があり県指定旧跡となっています。（山川愛）

編集後記

現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止とともに「ウィズ・コロナ」「アフターコロナ」の中での新たな生活様式と向き合う必要性が高まりを見せています。文化財保護の業務においても埋蔵文化財の発掘調査現場における対策や、文化財の保存修理事業の実施に際しての対応など、これまでとは異なる方法や指針に基づく行動が求められています。その一方で、熊谷デジタルミュージアムのようにインターネットやリモートで、文化財の知識を深め、興味関心に応じる媒体の新たな意義や価値についても再認識しています。今後とも文化財保護における新たな様式について考えながら、それぞれの取り組みを進めていきたいと思います。（山下）

発行：令和２年７月１日（2020/7/01）
熊谷市立江南文化財センター（熊谷市教育委員会社会教育課文化財保護係）
〒360-0107　熊谷市千代３２９番地
電話：048-536-5062　FAX：048-536-4575　メール：c-bunkazai@city.kumagaya.lg.jp
ＨＰ：「熊谷デジタルミュージアム」http://www.kumagaya-bunkazai.jp/museum/index.htm
ブログ「熊谷市文化財日記」、熊谷観光・文化財ナビゲーションアプリ「くまここ」更新中